

き、誠に有難うございます。

平成二十九年度の熊大病院群のマッチ者は五〇名と、平成二十八年、二十九年の四二名、四五名から順調に増加しました。また熊本県内の熊大病院群以外のマッチ者も八〇名となり、熊本県内のマッチ者数は過去最高の一三〇名となりました。これには平成二十八年四月の熊本地震の影響があつたとも考えられますが、熊大病院群卒後臨床研修プログラムを含む熊本県内の卒後臨床研修プログラムが医学生に高く評価されているためと考ええております。

さらに、平成二十九年度の臨床研修プログラムを修了し、平成三十年四月に熊本大学病院基幹型の専門医プログラムに採用された初期臨床研修医は九五名にのぼり、初期臨床研修制度開始以降の三年目採用者平均数七四名／年より二〇名以上増加しました。このことは、熊本県内の初期研修プログラムと専門医プログラムがより良く機能していることを示していると考ええております。

熊本は、いまだに熊本地震の影響が残っています。特に熊本市市民病院は現在再建の途上にあります。これからも熊本県の研修医育成に向けて、熊大病院群卒後臨床研修プログラムがよりよく機能するように努力してまいりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

トラウマ、うつとどうつきあうかー自分と家族、仕事におけるセルフケアー報告

熊本大学大学院生命科学研究所

看護学講座 宇佐美しおり

災害後、糖尿病や心疾患、悪性腫瘍、脳血管疾患などの慢性疾患の悪化、うつやPTSR (Post-Traumatic Stress Response, PTSD) の状態悪化による離職・休職が増えることが国際的に明らかになっていきます。熊本地震から二年がたち物理的復興はかなり進んできましたが、病院の離職や休職は熊本でも多くなっており、災害後の人々の健康維持・回復に向けた具体的なケア方略は災害後の中長期支援において、さらに重要になっていきます。

熊本大学生命科学研究部看護学講座の精神看護学では、被災者であり看護職を対象とした離職予防プログラムを作成し、離職につながる看護職のうつやPTSR悪化予防を目的としたセルフケア支援のためのセルフケア看護面接、二時間の公開セミナー、一グループ三時間の力動的集団精神療法を毎月一回二日間行っています。昨年度もWHO研究助成（災害後の人々の健康維持・回復に向けた具体的なケア方略、兵庫県立地域ケア開発研究所WHO看護協力センター、山本あい子・増野園枝主任研究代表者）を受け、肥後医育によるご支援をいただきました。このプログラムへのご理解とご

支援に、心より感謝いたします。

昨年度一年間の参加者は、三時間の力動的集団精神療法延べ二四四名、公開セミナー延べ三四四名、セルフケア面接五八名、専門家コンサルテーションは十七件でした。参加者は、震災の直接的影響は物理的・心理的に落ち着いてきてはいるものの、震災によってこれまでの生活上の傷つき、トラウマが浮上しやすくなり、震災後の仕事・家庭上のストレスに負担を感じ、自分自身が追い詰められ焦り、うつ状態、不安反応が強くなっていました。そしてこのような反応をおこす自分が問題であると自分を責め、不眠、食事が低下し、仕事に集中できず、さらに疲弊し回復するタイミングをなくしていました。

このプログラムによって仕事におけるストレスを改めて見直し、仕事のストレスとこれまでの生活史での傷つきの体験を分けながら怒りや悲しみを表出し、仕事との距離、怒りの奥にある自分の欲求を探し、仕事・家族において、どのように自分の欲求を満たしてセルフケアできるのかを検討し、自分の安全空間を得ていました。そして自分の大事なものとそうではないものを整理し、自分と仕事・家族との間の生活を見直し、地震後の自分自身を再構築していました。自分の状態とセルフケアの確認のために記載して頂いたモニタリングツールにおいては、このプログラム実施前後の心の状態、うつ状態は変化・改善していました。

災害三～五年間、被災者で支援者である看護職の離職、休職が通常より多いことがすでに国際的にも報告されているため、離職・休職を導くうつや不安状態の悪化防止プログラムは継続して実施することが必要です。今後、これらを実施でき、うつや不安の悪化を防ぐためのセルフケアへの看護介入技法特に、PAS・セルフケアセラピーが展開できる専門看護師 (Certified Nurse Specialist, CNS) や看護管理者、看護職の育成が必要と考えられました。

第九十回日本ハンセン病学会 総会・学術大会へ過去そして 今を、未来にへ 開催報告

第九十回日本ハンセン病学会会長

国立療養所菊池恵楓園副園長

野上 玲子

平成二十九年六月九・十日、合志市にある国立療養所菊池恵楓園の恵楓会館にて第九十回日本ハンセン病学会総会・学術大会を開催いたしました。国立ハンセン病研究センターからの基礎研究の発表のほか、教育・特別講演として免疫不全・自己炎症性疾患とハンセン病、年間一六〇〇人を超す新患が出るフィリピン（Neglected Tropical Diseases）の一つとしてのハンセン病、糖尿病にも共通する末梢神経障害性足病変について、そして近年増加傾向にある人文社会科学系研究